新連載執筆のねらい

「おふでさき」の標石的用法

深谷耕治

本連載の目的は、先の連載と同じく「おふでさき」を信仰者の立場から探求することにある。ただし、それを読む態度は根本的に異なる。先の連載では「おふでさき」に由来する意味内容が「私」を経由して展開していく様（有機的展開）がイメージされていた。信仰を「道」として表象するとき、その道を歩んでいたのは「私」ではなく「メッセージ」であった。しかし、本連載では、そうした立場を一転して、「私」を信仰の主体的な担い手として位置づけ、その主体性において「おふでさき」を読んでいく。すなわち、「おふでさき」は、道の「スタート地点」ではなく、その途上の「道標・地図・ガイドブック」として捉えられる。とりわけ、本連載では「おふでさき」を信仰の道の上に置かれた「標石」としてイメージしながら、その意味内容とともに、用法・文体といったスタイルなども信仰上の重要な手がかりとして探求していきたい。

国際シンポジウム「東アジア仏教の形成と展開」に参加

金子　昭

７月４日・５日の２日間、標記シンポジウムが鶴見大学仏教文化研究所と台湾仏光大学仏教研究センター主催により、鶴見大学（横浜市）及び日本仏光山本栖寺（山梨県南巨摩郡）にて開催され、私もコメンテータとして参加した。全体で４つのパネル、そして最後に総合討論があり、発題者・コメンテータだけで、日本と台湾からはもとより、中国、韓国、アメリカ、フランスから 30 名を超える参加者があった。使用言語も日本語、中国語、英語と３カ国語にまたがり、東アジア仏教をめぐる文字通り国際的なシンポジウムとなった。

１日目は鶴見大学会館ホールを会場に、「大乗経典に見られる社会」、「戒律と社会」、「華厳思想の現代的意義」の３つのテーマでパネルが連続して組まれた。プログラムがすべて終了した後、参加者は専用バスに乗って富士山本栖湖畔にある仏光山本栖寺に移動。翌２日目は同寺法輪堂ホールにてパネル４「人間仏教―仏光山を中心に」が行われ、その後に総合討論がなされた。この総合討議の際に、４つのパネル報告及びコメントが行われ、私もこの時に、パネル２「戒律と社会」のコメントを担当した。

日本スポーツとジェンダー学会第 14 回大会参加

金子珠理

７月４日・５日、明治大学にて開催された標記大会に参加した。４日は、３本の「スポーツとジェンダーカフェ」の後、掛水通子氏の基調講演「近代スポーツ史における女性の地位」と、シンポジウム「『近代スポーツ』揺籃期と女性：社会・身体・文化の交差」があった。５日は、３本の一般発表の後、会員企画セッション「スポーツ・メガイベントの植民地主義：フェミニスト、クイア、ポストコロニアル理論の視点からスポーツ・メガイベントの政治を問う」と、公開シンポジウム「スポーツにおける平等・公正とは：ジェンダーの観点から」が行われた。2020 年に夏季オリンピック（東京）を迎えるが、オリンピック自体を問題視する言説は一般的には少ない。まさにジェンダー・グローバル・ポリティクスのアリーナとも言えるオリンピックを、資本主義、新自由主義、グローバル化、ジェンダー平等、マイノリティの視点などから批判的に考察する試みは、大変示唆に富むものであった。

(From page 13)

royal capital within a short span of two months. Later, however, rapid Christianization led to friction with the values and habits of the traditional society, and this led to a dispute among the successors of the crown.

Kazukuni Watanabe — Paving the Way Towards Local Community Welfare: Creation of a New Culture of Philanthropy (9) Undertaking of the "Tenri Pe-supe-su Project"[2]

Human beings are challenged with the task of creating, in addition to family and school/workplace, a community and a third place of belonging—"a third place"—within it. The community chest's new undertaking, the "Tenri Pe-supe-su Project," developed its activities on the theme of "a place of belonging within the region." This was an undertaking appropriate to the community chest, a fundraising movement within the local people. An executive committee comprised of people who worked in the areas of social welfare in Tenri became the platform to promote this project, and the project began to move forward in concrete ways.

Juri Kaneko — Contemporary Religion and Woman (5) The Mystery of the Henjo Nanshi

The term, "henjo nanshi" (transformation into male), appears in the Lotus Sutra (Chinese translation) in section often cited for "Buddhism's discrimination against women." Through a comparison of the Sanskrit and Chinese accounts of this section, I would like to reflect upon the issue of scriptural translation. Both accounts seek to demonstrate the possibility for women to attain enlightenment, and there is no denying the sole priority attributed to males as a sexuality. Even the non-attainable stature of the female body—a theory inserted in the Chinese translation—reveals an unexpected dimension, of gender equality, in the Sanskrit version of the henjo nanshi, when examined in relation to the Thirty-two Signs of the Great Man.

ホームページのご案内

おやさと研究所にはホームページがあります。

（http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/）

検索サイトで「おやさと研究所」と入力すれば、簡単にアクセスできます。また、天理大学のホームページの「教育・研究」の項目からも入れます。

研究所のホームページでは、研究所設立の理念や研究所員の情報、また定例の研究報告会や伝道、宗教（一般）に関する研究会の報告などが掲載されています。その他、イベントの情報や研究所から出版されている書籍の一覧もあります。

本誌『グローカル天理』（2010 年以降分）も、ホームページ上で公開しておりますので、ぜひご覧下さい。